

サロンでの気づき

サロンを訪問させて頂き、気づいたこと、聞いたことなど、お伝えしたいと思います。何かお役に立てれば嬉しいです。

九州で大きな被害をもたらした今年の梅雨、本当によく降りましたね。一転して今度はうだるような暑さがやってきました。今年の夏も暑くなりそうです。

もう少しでロンドンオリンピックが始まりますが、今は広島カープを応援することが最大の楽しみに、息抜きになっております。前半戦を3位で折り返し、安月給の若手選手とベテラン選手が一丸となって頑張っています。特に甘いマスクの堂林は女性に大人気です。背番号の13は、大リーグ・ヤンキースの「4番・サード」ロドリゲスのような選手になって欲しいという願いが込められているそうです。



今のチーム状態なら優勝も夢ではないと思います。Jリーグでもサンフレッチェ広島が首位を走っており、カープとのダブル優勝になれば最高です。

さて、休日に前々から気になっていたのですが、地元なので行くことのなかった、平和公園と原爆ドームをつなぐ元安橋東詰の河川緑地にあるオープンカフェ・ポンテに行ってきました。

ポンテはイタリア語で「橋」という意味で、「来訪者に憩いや交流の場を提供し、潤いと安らぎのある川辺の風景を創り出す」ことをコンセプトにつくられた、食材にこだわった本格イタリア料理を提供するお店です。



外に飾ってある鮮やかなオレンジにそそられ、絞りたてのオレンジジュースとボリューム満点のパフェを頼みましたが、どちらも大満足です。コンセプトどおり、川辺での安らいだ時間を過ごすことができました。



続いて、サロンで気づいたことをご紹介させていただきます。

①先日、開催したカットの講習会で講師の先生が最後に『一人前』と『一流』の違いについて話されました。

『一人前』とは

どんな仕事でも何年かやっていれば右から左に人並にこなせる。

自分とその周囲の人を幸せにすることができます。

『一流』とは

仕事に対して「使命感」を持っている。たくさんの人を幸せにすることができる。

講師の先生は、「美容を通じてお客様の髪、心をきれいに幸せにする事で一流を目指している」とおっしゃっていました。

②サロン様の待合で少し待たせて頂いた時のことです。スタッフの方がブローに入っているお客様に「〇〇さん、今日は短く切ったんですね。凄くかわいいですね。」別のスタッフの方も「かわいいですね。」私にはその時のお客様の顔は見えなかつたのですが、店長の仕上げが終り、手鏡で確認をしている時、そこには満面の笑みをうかべたお客様の顔がありました。レジが終わり、扉を開ける時もスタッフの方が「かわいいですよ。」お客様も笑顔で頭を下げて車に乗り込みました。美容の仕事、最高ですね。いつもお客様に感動していただけるよう、こなす仕事にならないよう心がけているそうです。

③東京で学生生活、証券会社でOLを経験され、地元に帰って美容室を継がれて頑張っている二代目さんの話です。「地元(田舎)に帰って来たときは、いやでいやでしうがなく、逃げ出したこともあります。でも今は美容の仕事をして本当に良かったと思っています。そして、母のお客様には本当に感謝しています。大学に行かせていただいた。いろんな経験をさせていただいた。今の自分がるのはお客様のお陰です。これからはお客様に、もっともっとご恩返しをしていきたい」とおっしゃっていました。

④あるサロンの先生がスタッフさんの事で「人から言われたのではなく、自ら、自発的にお客様に笑顔が出た瞬間からどんどん伸びていく」とおっしゃっていました。私が「200万円の技術者と80万円の技術者の違いは」と尋ねると、「技術の差ではなく、人柄、情熱の違いです。」「同じサロンで働いていて、本当に追い越したいんであれば、ある時、びびっと気づく時がきます。気づかないのは本気でないから」だとおっしゃっていました。

「本気で仕事に、本気で人に向き合っている人はどんどん成長していく」ことを感じました。

(裏面に続く)

続いては、月刊「致知」の年間購読を継続した際に礼状と共に送られてきた小冊子「人生をひらく」をご紹介させていただきます。

「人生をひらく」

人生をひらくとは心をひらくことである。

心をひらかずには固く閉ざしている人に、人生はひらくない。

「ひらく」には、開拓する、耕す、という意味もある。いかに上質な土壌もコンクリートのように固まってしまうと、よき種を蒔いても実りを得ることはできない。
心をひらき、心を耕す…人生をひらく第一の鍵である。

社会教育家の田中真澄さんが講演でよくされる話がある。

人間の能力は、知識、技術、そして心構えの三辺で表される。どんなに知識と技術があっても、心構えが悪ければ、能力は出てこない。すべては底辺の心構えいかんにある。

さらに、よき心構えは積極性×明朗性で表される、という。なるほど、と思う。消極性×陰気では何事も成し得ない。

『致知』三十余年、これまでにご登場いただいた幾多の先達のことを思うと、田中さんの言葉がよく理解できる。確かに人生をひらいた人には共通した心構えがあった。

その一は『物事を前向きに捉える』。

物事を後ろ向きに捉えて人生をひらいた人はいない。

その二は『素直』。

宮大工の小川三夫さんは高校卒業後、「法隆寺の鬼」「最後の宮大工」といわれた西岡常一棟梁に弟子入り。修業時代は棟梁の言葉にすべて「はい」と従った。そしていまや社寺建築の第一人者である。その経験からいう。

「批判の目があつては学べません。素直でなければ本当の技術が入っていないかですね」と。

心にわだかまりがある人は人生を歪める。多くの先達がいっていることである。

その三は『感謝の念を忘れない』。

人生の成功者に共通した資質がこれである。成功者は呪いたくなるような境遇をも、この境遇が自分を育ててくれると感謝している。

その四は『愚痴をいわない』。

自分が出したものは自分に返ってくる。宇宙の法則である。愚痴ばかりいっている人は、愚痴ばかりの人生になる。

心構えに関する田中真澄さんの卓見がある。

「心構えというのは、どんなに磨いても毎日ゼロになる能力である。毎朝歯を磨くように、心構えも毎朝磨き直さなければならない」

人生をひらく第二の鍵である。

『論語』と並ぶ古典『大学』は全編これ、人生をひらく教訓に満ちている。中でも心に響く一文がある。

ちゅうしんもって これ きょうたい
「必ず忠信以って之を得、驕泰以って之を失う」

まごころを尽くしてすれば何事も成功するが、反対におごり高ぶる態度ですれば必ず失敗する、ということである。

人生をひらく第三の鍵といえよう。

最後に、二宮尊徳の言葉。

「太陽の徳、広大なりといえども、芽を出さんとする念慮、育たんとする気力なきものは仕方なし」

はつぶん
発憤力こそ人生をひらく源であることを忘れてはならない。

『致知』編集発行人
藤尾 秀昭
『致知』二〇〇九年七月号「人生をひらく」より

商品の使い方など困っていることがございましたら、何でもTEL、メール、FAXでお遠慮なくお尋ね下さい。

続いては、今月のおすすめの一冊ですが、いつもの山の素敵な本屋さんに紹介いただいた本です。

「置かれた場所で咲きなさい」

ノートルダム清心学園理事長
渡辺和子著(幻冬舎)



まずは本の帯と表紙から

人はどんな境遇でも輝ける

「時間の使い方は、そのまま、いのちの使い方なのです。置かれたところで咲いていてください」
結婚しても、就職しても、子育てをしても、「こんなはずじゃなかった」と思うことが、次から次に出てきます。

そんな時にも、その状況の中で「咲く」努力をしてほしいのです。

どうしても咲けない時もあります。雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そんな時には無理に咲かなくともいい。その代わりに、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。次に咲く花が、より大きく、美しいものとなるために。

この本をお求めになりたい方はお申し付け下さい。商品と一緒にお届けさせていただきます。
※お届けまでに少し時間がかかることがあります。ご了承下さいませ。

「あなたが大切」 (本文より抜粋)

心に届く愛の言葉

(前略)

生前、私が教えている大学に来て学生たちに話をしてくださったマザーテレサは、どこから見ても「宝石」とは考えられない貧しい人々、孤児、病者、路上生活者を、「神の目に貴いもの」として熱く看護し、”あなたが大切”と、一人ひとりに肌で伝えた人でした。マザーの話に感激した学生数人が、奉仕団を結成して、カルカッタに行きたい、と願い出たことがあります。それに対してマザーは、「ありがとう」と感謝しつつも、「大切なのは、カルカッタに行くことより、あなたの周辺にあるカルカッタに気付いて、そこで喜んで働くことなのですよ」と優しく諭されたのです。

今、”あなたが大切”と感じさせてくれる、そのような愛情に飢えている人が多くいます。この大学は、自分も他人も「宝石」と見て、喜んで周辺のカルカッタで働く人たちが育つ大学であってほしいと願っています。

”あなたが大切だ”と
誰かにいってもらえる
だけで、生きていける。

人は皆、愛情に飢えている。存在を認められるだけで、人はもっと強くなれる。

以上

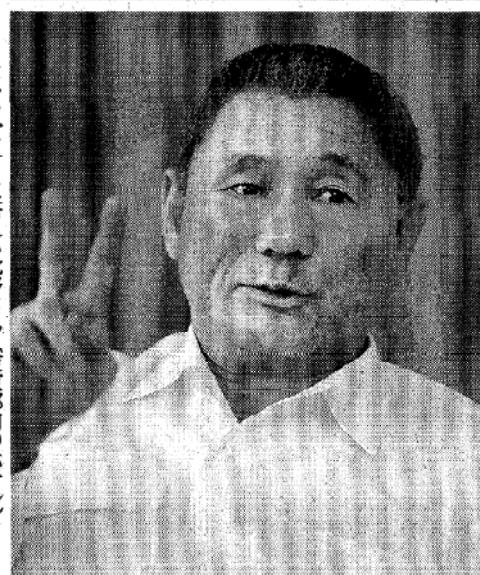
今、目の前のお客様を大切に積み重ねていきましょう。

最後は、2年前の中国新聞(広島の新聞)に掲載されていた、タレントの北野武さんの記事をご紹介させていただきます。今、読み返してみるととても面白いですよ。

映画監督、テレビタレント、俳優…。多彩な活躍を続ける北野武さんが、フランスで出版された自叙伝「Kitano par Kitano」の日本語版発売を機に、ニッポンの問題点を縦横無尽に語ったー。

(聞き手は共同編集委員・立花珠樹)

「ここがおかしいニッポン」 北野武さん語る



インタビューに答える北野さん(東京都内のホテル)

きたの・たけし 47年東京都生まれ。漫才コンビ「ツービート」を経てテレビで活躍。映画監督としては「HANA-BI」でベネチア国際映画祭金獅子賞を受賞するなど、国際的な評価を受ける。最新作「アウトレイジ」が公開中。パリのカルティエ財団美術館で「北野武/ビートたけし展」が9月まで開催中。

暴力団とのつながりだけで、日本社会そのものが、あなあでもつてきたのは間違いない。メディアも、大きなものに対して闘うと言っている割には、広告主に対しては必ずいぶん弱氣だつたりしてね。最近はそれがばれちゃっているんで、メディアに対してみんなの意見が冷たいんじゃないですかね。

映画の世界もひどい

情報の家畜になるな

コンピューターは嫌い。メールも嫌い。携帯電話は車の中にあるけれど出たことない。ツイッターだって、冗談の言い合いをしたり、遊ぶなんらいけど、あれを情報として扱っているバカさ加減はよく分からぬ。情報つて、町を歩いていれば入ってくる。テレビとなるたけ見ないようにして、なおかつ入ってくる情報は正しいと思う。でも、今の人たちは情報を探しまくるんで

す。自分で追いかけられない。メールも嫌い。携帯電話は車の中にあるけれど出たことない。ツイッターだって、冗談の言い合いをしたり、遊ぶなんらいけど、あれを情報として扱っているバカさ加減はよく分からぬ。情報つて、町を歩いていれば入ってくる。テレビとなるたけ見ないようにして、なおかつ入ってくる情報は正しいと思う。でも、今の人たちは情報を探しまくるんで

す。自分で追いかけられない。メールも嫌い。携帯電話は車の中にあるけれど出たことない。ツイッターだって、冗談の言い合いをしたり、遊ぶなんらいけど、あれを情報として扱っているバカさ加減はよく分からぬ。情報つて、町を歩いていれば入ってくる。テレビとなるたけ見ないようにして、なおかつ入ってくる情報は正しいと思う。でも、今の人たちは情報を探しまくるんで

す。自分で追いかけられない。メールも嫌い。携帯電話は車の中にあるけれど出たことない。ツイッターだって、冗談の言い合いをしたり、遊ぶなんらいけど、あれを情報として扱っているバカさ加減はよく分からぬ。情報つて、町を歩いていれば入ってくる。テレビとなるたけ見ないようにして、なおかつ入ってくる情報は正しいと思う。でも、今の人たちは情報を探しまくるんで

す。自分で追いかけられない。メールも嫌い。携帯電話は車の中にあるけれど出たことない。ツイッターだって、冗談の言い合いをしたり、遊ぶなんらいけど、あれを情報として扱っているバカさ加減はよく分からぬ。情報つて、町を歩いていれば入ってくる。テレビとなるたけ見ないようにして、なおかつ入ってくる情報は正しいと思う。でも、今の人たちは情報を探しまくるんで

す。自分で追いかけられない。メールも嫌い。携帯電話は車の中にあるけれど出たことない。ツイッターだって、冗談の言い合いをしたり、遊ぶなんらいけど、あれを情報として扱っているバカさ加減はよく分からぬ。情報つて、町を歩いていれば入ってくる。テレビとなるたけ見ないようにして、なおかつ入ってくる情報は正しいと思う。でも、今の人たちは情報を探しまくるんで

す。自分で追いかけられない。メールも嫌い。携帯電話は車の中にあるけれど出たことない。ツイッターだって、冗談の言い合いをしたり、遊ぶなんらいけど、あれを情報として扱っているバカさ加減はよく分からぬ。情報つて、町を歩いていれば入ってくる。テレビとなるたけ見ないようにして、なおかつ入ってくる情報は正しいと思う。でも、今の人たちは情報を探しまくるんで

す。自分で追いかけられない。メールも嫌い。携帯電話は車の中にあるけれど出たことない。ツイッターだって、冗談の言い合いをしたり、遊ぶなんらいけど、あれを情報として扱っているバカさ加減はよく分からぬ。情報つて、町を歩いていれば入ってくる。テレビとなるたけ見ないようにして、なおかつ入ってくる情報は正しいと思う。でも、今の人たちは情報を探しまくるんで

す。自分で追いかけられない。メールも嫌い。携帯電話は車の中にあるけれど出たことない。ツイッターだって、冗談の言い合いをしたり、遊ぶなんらいけど、あれを情報として扱っているバカさ加減はよく分からぬ。情報つて、町を歩いていれば入ってくる。テレビとなるたけ見ないようにして、なおかつ入ってくる情報は正しいと思う。でも、今の人たちは情報を探しまくるんで

す。自分で追いかけられない。メールも嫌い。携帯電話は車の中にあるけれど出たことない。ツイッターだって、冗談の言い合いをしたり、遊ぶなんらいけど、あれを情報として扱っているバカさ加減はよく分からぬ。情報つて、町を歩いていれば入ってくる。テレビとなるたけ見ないようにして、なおかつ入ってくる情報は正しいと思う。でも、今の人たちは情報を探しまくるんで

安けりやいいのか / 癒着だらけ

悪人になれなくて、ちっちゃな善人になるうどするけど、みんなああいう轍を踏むんですよ。だって基本的に政治家ってのは、多数の人間を殺す可能性がある戦いにまで、主導権を取る人なんだか、小さな善なんて言つても、そのまま仕事やつて生きる自信あるね。若いころからなぜか、63歳くら

りいでくたばるかと思つて、その年になつただけ余命1ヶ月と言われてる。それが冒険に見えただけでいいじめられたから、あつちの穴に逃げあつたり、逃げ場所がない。レビがあつたり、役者が生き残るんだつて。政治もそう。政権交代のときには、高速道路無料化なんて絶対できないって言つた。民主党のの人たちを見て、どうしてできるんだつて。交通事故起こして以

て、生きる自信あるね。若いころからなぜか、63歳くら

タヒューをまとめ、2月

にフランスで出版され

た。

生い立ちやテレビ

映画論、交通事故のことなど多岐にわたる内容。

日本語版(松本百合子訳)

ン氏が5年にわたるイン

・早川書房)は7月発売。